

とよなか

(部内資料)

教え子を再び戦場に送るな！ 2017年6月28日発行NO. 585

子ども達の豊か
な成長・発達の
ために皆で力を
合わせましょう！

全国ですすめられる学校統廃合・小中一貫校 表向きの理由とは別なそのねらい

わかりやすいホンネ？

門川京都市長（教育再生実行会議）での発言
（2015年5月19日）

（京都市では）「この間、すでに68校を17校に統合しました。…その財政効果は、年間22億円の学校運営費が減っている。そして、学校施設の改築経費は441億円削減されています。また、…教職員358人減り、人件費は年間32億円減っている。4校を1つの小中一貫校にする。その場合校長は1人です。プールの大きさも25mいっしょであります。

これが、いかに財政効果が大きいのか…」

※教育再生実行会議とは安倍内閣における教育提言をおこなう私的諮問機関。

庄内地域の計画

あきらめない
まだ決まっていない

全国で統廃合が急増
地方では、平成の大合併に伴う合併自治体での廃校。東京では学校選択制導入によって学校統廃合がすすんできました。そして、現在、安倍内閣による「地方創生」と結びついた学校統廃合が全国ですすめられようと

「小規模校」では「切磋琢磨」できない。「人間関係が固定化する」といった主張が豊中市だけでなく、全国で行政当局によって主張され学校統廃合がすすめられようとしています。

しています。
2014年に総務省は全国の自治体に「公共施設等総合管理計画」の策定を求めました。

「総合管理計画」は自治体に公共施設の統廃合・複合化、民営化などを計画化させるものです。3年間（この3月末まで）で計画を策定すれば計画策定費は国の地方交付税の特別交付税から支出されることになっています。

各自治体の公共施設の5割は学校施設（豊中市は46.6%）であるため、今、学校統廃合の動きが全国各地で生まれています。

豊中市も3月に「総合管理計画」策定をしています。

小学校でも中学校でもない第三の義務教育 「義務教育学校」

2016年4月、学校教育法が改正され義務教育学校（小中一貫校）が新たにできました。

2000年、広島県市でスタートした小中一貫制

度は2013年には全国で100校の施設一体型小中一貫校が開校するまじになりました。
そして、2017年4月、義務教育学校が全国に40校程度（大阪府2校）が開設しています。
義務教育学校の要件は

庄内地域 学校統廃合を考える会 市民への宣伝 署名

全教も加わる学校統廃合を考える会は、問題がたくさんある学校統廃合計画について市民に広く宣伝する活動にとりくんでいます。



写真は、4月に服部緑地公園でとりくんだ宣伝。署名に協力してくる高校生

9年間一貫した教育目標をもち「6・3制」に限らず、「5・4制」「4・3・2制」など自由に教育課程をつくることができます。1名の校長と1つの教員組織によって構成されること、がありません。

豊中の浅利市長は、年初の庁内職員向けのあいさつの中で、庄内地域でつくる学校は、「義務教育学校」と話しています。

検証されていない教育的効果とデメリット

2015年の「義務教育学校」法制化の国会審議の際に、文科省は「小中一貫校と非一貫校を同一条件で比較した調査はない」と述べています。

中教審(2014年)答申でも教職員や学校経営の「一体化」についてはメリットを指摘できませんが、「学力向上」に

ついでには提起できていません。

「奪われる小5、小6期」といった指摘が大規模小中一貫校(義務教育学校)の品川など先行の自治体の学校関係者から挙げられています。(山本由美和光大学教授)

少なくとも、小中一貫校になれば、必ずこうなるといえることはまだ何も検証されていません。

大規模校は全く教育的でないという思いを参加者が共有できる学習会になりました。

ちょっと待って!!

学校統廃合

豊中市 市民説明会

そして

パブリックコメント

豊中市は庄内地域の学校統廃合・小中一貫校計画についての計画(素案)を示して、市民説明会を行い、パブリックコメントにかけるとしています。

○市民説明会

7月5日(水) 午後7時

7月9日(日) 午前10時

庄内公民館

○パブリックコメント

7月3日(月) ~ 21日

(金)

○閲覧場所

学校教育課(市役所6階)など

シリーズ 1

「森友学園問題」を考える

昨年夏から木村真市議などと運動をすすめている平川節代さん(書記組合員)からです。

庄内の10中の横に小学校が建設されるらしいという情報を得た。「瑞穂の國記念小学院」で検索すると、出た!名誉校長は安倍昭恵総理夫人。推薦人には田母神俊雄、西村慎吾といった札付きの右派の面々。「教育勅語を柱とする教育を目指す」など、にわかには信じられないような内容にショックを受ける。(こんな学校をなんで豊中に作るの!?なんとかストップできないだろうか)と悶々。木村真さん(無所属豊中市会議員)から「考える会を立ち上げましょう、お集まりください」とメールがあり、参加した。共産党市会議員山本いつとくさんも含め数人だったけど、なんとかしたという皆さんの思いは同じだった。いろいろな経過を経て、学校建設予定地の売買価格だけが非公開だった。「これはおかしい!」とピラを作り、各戸配布。籠池さんの住所もわかっていたので、その周辺には念入りに、籠池さん宅にはおまけに数枚入れたという報告もあった。

6/4 考える会

「学校統廃合で失われる地域の力」

中山徹さん

(奈良女子大学教授)

学習会に80名の参加!

まちづくり、都市計画が専門の中山先生。そして、豊中在住であり、わが子の小・中・高校PTAの役員をされ地域の活動にも参加された経験をもとに一時のお話をされました。

「子どもの数の減少だけで統廃合1000名規模の小中一貫校を作るのは

時代錯誤」「統廃合した大阪市は今、教室不足で大変困っている。」「統廃合で地域の絆が失われ地域の力が弱まる。今の学校規模存続して庄内という街の魅力を活かし、子育てしやすい街づくりを。」という訴えは、本当に力強くその通り!と思えるお話でした。

講演に先立って庄内地区の松下市会議員、元公民分館長、庄本自治会連合会長さんのお話や講演後のフロアからの発言も学校を拠点とした地域のつながりが大切で、中学生と小学生を一緒にした

